

ひとり情シスのIです。

今日は、ネットで発見して、購入した本の感想を書いてみたいと思います。

書名は「ひとり情シス ONE MAN IT」です。

<https://www.amazon.co.jp/%E3%81%B2%E3%81%A8%E3%82%8A%E6%83%85%E3%82%B7%E3%82%B9-%E6%B8%85%E6%B0%B4-%E5%8D%9A/dp/4492961518>

ひとり情シスとは、企業内で情報システム要員が一人かそれ未満の状態でも企業の IT インフラを管理している状態、あるいはそういう状況に置かれた人のことをいいます。これは自分のことだと思って、何かヒントになることは無いかと思って購入しました。

読んだ感想ですが、まず、中堅企業と呼ばれる従業員 100 名以上、1000 人未満の会社でも情報システム要員が「一人」の企業が全体の 14%を占め、しかも専任担当者がいない企業が 13%を占め、双方を合わせると 27%となっている現実があるということは、驚きでした。弊社のようなそれより規模の小さい会社であれば情報システム専任の人材は置けないのは理解できますが、現実はそのようです。

あとは、以下のようなことが書いてありました。

- ・ IT のランザビジネス予算とバリューアップ予算は 8 : 2。
- ・ 保守サービスのコスト検証は年 1 回実施が必要。コストには運用に携わる人の人件費も含む。
- ・ ある技術を採用するタイミングは、そのバズワードをタイトルにした書籍が 30 冊ほど出版された後

あとは、ひとり情シスのタイプ分けがされていて、これは結構面白いなと思いました。

印象に残ったのは旧情シス系ひとり情シスの方の言葉で、これは自分自身でも大事にしたいなと思いました。

「どのようなことがあっても記録はしっかりとり、後々の資産として蓄積する」

「常日頃から引き継ぎのドキュメントは整備しておく」

今日はこんなところでしょうか。それでは、また明日。(I)